

# 野田 九条通信

2010年7月号

No.56

「野田・九条の会」事務局

TEL 7122-0502

野田九条の会ホームページ  
http://www17.ocn.ne.jp/~art.9/

紫陽花の横で向日葵が背を伸ばしています。もうすぐ夏です。沖縄の基地問題は何の進展もなく総理大臣だけが交代しました。あの辺野古で新聞をにぎわせていたのは何だったのでしょうか。沖縄と基地の問題はこの参議員選挙で争点にはならないのでしょうか。消費税論議にすり替わってしまいました。よく見て考えて判断を示したいものです。

時の話を聞き、自分の生活に引き寄せて考えてみようと思います。

## ぶっちゃんトークに集まれ

### 平和のための戦争展 2010

終戦から65年目の夏、戦争と平和について考える企画から画を練っています。実際に戦争を体験した「語り部の会」の方から貴重なお話を聞きます。高校生や大学生も一緒に戦争当

8日の午前中には、現代企画室編集長の太田昌国さんから憲法九条と安保の問題を戦後史をたどりながら、新ためて考える講演を聞きます。私たちが生きてきた50年間でどんなことが起こり、国際関係や日本の立場が変化してきたか、わかりやすくお話ししていただきます。ご期待下さい。

## 充実の展示はロビーと講堂

今年の展示は中央公民館のロビーと講堂全部を使って広く充実させます。講堂ではゆつくりと座って休憩したり話をしたり出来るスペースを設けま

あります。7日昼からは講堂のフロアで朗読劇と沖縄のエイサーも披露。子どもから大人まで楽しみながら、考える企画でいっぱいです。

詳しくはチラシをご覧ください。

### 九条への想い

私は、父の姿、声を知らない。戦死（戦病死）を知ったのは、あえて知らされたのではなく、祖母が日頃父の事をそれとなく語っていたので、それで自然にあつたようなのだと理解していたようだ。中学生の頃だった。母が押入に大切にしまっていた茶色の革のトランクを開けてみた。それは子供の私が開け

てはならないと思っていたので、胸が高鳴ったと思う。

幾つかの書類の中に数枚のはがきがあった。それは戦地からので検閲の印が押されてきた。小さな文字でぎつしりと書かれた内容は、理解しにくい個所があったがその中に私の事も書かれていた。読んでいくうちに知らず

## 靴

世田谷九条の会

土屋 正子

大人になって読み返して、あの頃のように涙を流さないが、それはあの時は私の事を心配していた。父がいたのだと実感してこみあげたのだと思う。九条の会が発足して私も入会した。九条の大切さ、守りたい。それは父を

憶うと共に、犠牲になった数多くの人々への手向けになるとの思いです。ところであの茶色の小さなトランクは、父が商用の時に持ち、使用した愛用のトランクだったと母から聞かされました。今平穏な暮らしの中で、時折父を憶っている私です。

「九条への想い」への400字程度の原稿をお待ちしています。

国民投票法の学習会（主催 野田・九条の会 入場無料）

「国民投票法」が施行され、いよいよ憲法改悪の受け皿がスタンバイ。しっかり勉強しておきましょう。

7月17日（土）午後1時半～3時

中央公民館1階会議室 講師 鎌田孝代弁護士

平和展チラシまき 7月9日（金）午後4時～川間駅南口

定例会 7月17日（土）午後3時～5時中央公民館1階会議室

#### 米軍基地は要らない

沖縄米軍基地問題で、公約が180度逆になり、首相を辞任した鳩山氏に替わって、菅直人氏が首相になりました。しかし菅氏は前首相の意志を継ぐとして、普天間の移設を辺野古とした日米合意をも継ぐことを明言しました。鳩山政権となんの変わりもありません。一方で日米合意を守り、一方で沖縄県民の絶対反対を前にして、どのように基地問題を解決するつもりでしょうか。そのままでは不可能なことです。沖縄県民はただ負担が軽くなることを願っているのではなく、基地撤去を求めているのです。菅内閣は、日米合意を白紙撤回しない限り、鳩山氏と同じ轍を踏むことになるでしょう。

この問題は重大であり、なおかつ強権的な相手国に向かって交渉するのですから、首相一人に任せるのではなく、政府はもちろんマスコミも大いに取り上げ、国民は世論を盛り上げて、ねばり強く取り組まなければならないでしょう。今のこの機会を逃したら、さらにも長い苦しみと忍従の歳月を耐えなければならなくなります。今は国難の時といえますが、変革可能な機会でもあるのです。

#### アメリカ人も批判

沖縄米軍基地が、理にかなったものかどうかについてはアメリカのかなりの人も疑問視しています。その一部を紹介します。

ジョージ・パッカード氏

(米日財団理事長・ライシャワー元駐日米大使特別補佐官)

「米政府は、名護市長選挙の結果を尊重しなければいけない」「沖縄の基地はどうしたらいいのか、本土の人がもっと議論しなければいけない。今も沖縄にあれほどの基地が必要なのか。想定している敵はどこなのか」「ライシャワーが健在なら、彼はこう断言しただろう。日本国内にこれほど大きな陣地を構える必要はない」「彼は、米国が一方的に日本に屈従を強いるような日米同盟は、やがて破綻すると考えていた」「米国との同盟を語る日本の声はあまりに受身に弱々しい。日本はなぜブッシュ政権がイラクに侵攻した時、仏独のように反対の論陣を張れなかったのか。600人もの自衛隊を派遣して、ブッシュの戦争を支持してしまっただけではないか」

(朝日新聞2010年2月17日)

キーティング前米太平洋軍事司令官

「海兵隊の沖縄県内の駐留は、より好ましいが絶対というわけではない」(朝日2010年4月16日)

ワインバーカー米国防長官

「沖縄に駐留する米海兵隊は、日本防衛の(任務を)割当てられていない」

(安保破棄中央委「今日の日米同盟」より)

ジョンソン国務次官補

「我々は通常兵力による日本防衛に直接に関係する兵力は、陸軍にしる海軍にしる日本には持っていない」「駐留米軍の多くは、直接日本の安全と結びついていない」(上に同じ)

#### 「抑止力」は口実

政府もマスコミもよく「日本の防衛の抑止力として沖縄の米軍駐留は必要だ」といいますが、米国の軍関係高官が口を揃えて、日本を防衛するために駐留しているのではないと言っているのです。

そもそも「抑止力」という言葉は、沖縄基地を合理化するための都合のよい言葉にすぎません。ジョージ・パッカード氏も言っていますが、どこの国を仮想敵と考えているのでしょうか。中国は今では、日本にとってもアメリカにとっても経済や貿易等、互惠のために大切な国であり、中国もまたそうなのです。北朝鮮がデモンストレーションめいて何かしたとしても、日本に攻め込んで来るなどと本気で信じる人などいないのではないのでしょうか。6カ国会議を復活させて話し合えばよいのです。

#### オバマさんも本当の平和を考えて

アメリカ人の中には理解力のある人もいますが、既得権のように考えて基地の存在に固執するのが米国政府です。オバマ大統領は受賞したノーベル平和賞をどう考えているのでしょうか。世界的な視野で民主主義的な、あるいは人類愛的な平和への判断をして欲しいものです。戦争で平和は創れません。

◇ ◇

沖縄基地についての日米合意の撤回そして基地の撤去ができにくいのは、その上にさらに日米安全保障条約がのしかかっているからです。これを廃棄すべきです。次号に、安保条約について述べます。

(森本房子)